

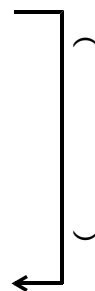
国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

百人一首をよむ 黄

恋の歌1



39 浅茅生の小野のしのはらしのぶれどあまりてなどか人のこひしき

参議源等
さんぎみなちのひとし

【歌意】私は思い忍んでいるけれども、どうにもたえきれない。どうして、あなたがこれほど恋しく思われるのだろうか。

【語句】浅茅生……茅がまばらに生えているところ。

小野……野原。

篠原……篠の生えている野原

【修辞法】序詞 初・二句「浅茅生の小野のしらはら」の「しのはら」と三句「しのぶれど」の音が同じ。初・二句は歌意に関係ない。



46 由良の門を渡る舟人かぢを絶えゆくへもしらぬ恋のみちかな

曾根好忠
そねのよしただ

【歌意】由良の瀬戸を渡る船乗りが、かぢを失って、行く先もわからず漂うように、行く末の成り行きもわからない（たよりない）恋の将来よ。

【語句】由良……兵庫県淡路島津名郡（今の洲本市）にある港町。
瀬戸……幅の狭い海峡。潮汐の干満によって激しい潮流を生ずる。